

◎明治三十八年Ⅱトウフ式丁式銭八厘、イカ拾匹式拾銭、半紙壹帖参銭五厘、炭式俵式拾銭、大豆壹升拾銭。

◎明治四十一年Ⅱ大豆壹升拾式銭、イカ七拾匹八拾四銭、鱒式本式拾八銭、炭式俵参拾八銭、半紙壹帖四銭、タマゴ式拾個四拾銭。

◎明治四十四年Ⅱイカ式拾壹匹参拾六銭、長サメ参本四拾銭、半紙壹帖四銭、鯛七枚拾四銭、コンニャク拾五丁拾五銭、大豆壹升拾銭、炭式俵参拾銭、ボラ四本四拾八銭。

◎大正三年Ⅱ半紙式帖七銭、炭壹俵拾五銭、干鱒一丸壹円拾銭、タマゴ式拾個四拾銭、トウフ八丁八銭、コンニャク参拾丁参拾銭。

◎大正六年Ⅱ長較参本壹円拾銭、タマゴ拾五個参拾銭、干鱒壹メ壹円七銭、大豆壹升拾壹銭、イカ八拾匹式円、コンニャク拾五丁拾五銭、半紙式帖九銭、生酒式斗八円、長較式本式拾五銭、スルメ六枚拾式銭、鱒壹本八銭、炭壹俵式拾四銭。

◎大正九年Ⅱ大豆壹升式拾七銭、身欠ニシン参把参円参拾銭、炭壹俵五拾五銭、半紙四帖五拾式銭、タマゴ拾五個七拾五銭、干鱒壹メ式円拾五銭。

◎大正十五年Ⅱ半紙壹帖拾五銭、長較四本参円五拾五銭、炭式俵壹円、コンニャク五丁拾五銭、干鱒壹掛式拾五銭、白米一俵五升拾五円拾五銭、イカ八拾五匹五円九拾五銭、カシベ壹枚壹円八拾銭、スルメ四把壹円。

◎昭和四年Ⅱ半紙壹帖拾銭、炭壹俵四拾銭、上茶壹本五拾銭、干鱒壹掛式拾五銭、イカ壹箱拾四円五拾銭、コンニャク拾丁式拾五銭。

◎昭和七年Ⅱイカ壹箱六円七拾銭、長較拾本式円五拾銭、炭参俵四拾五銭、半紙式丁拾四銭、干鱒壹掛式拾銭、身欠ニシン四把壹円。

と、諸色品帳に記帳されており、これを左記のように抽出してみると、

米 諸 品 価 格 米

| 区分年      | 大豆 1 升  | 半紙 1 帖  | タマゴ 1 個 | 炭 1 俵 |
|----------|---------|---------|---------|-------|
| 明治 2 2 年 | 7 銭 5 厘 | 3 銭 8 厘 | 1 銭     | 13 銭  |
| 明治 3 2 年 | 6 銭     | 4 銭     | 1 銭 5 厘 |       |
| 明治 3 5 年 |         | 4 銭     |         | 12 銭  |
| 明治 3 8 年 | 10 銭    | 3 銭 5 厘 |         | 20 銭  |
| 明治 4 1 年 | 12 銭    | 4 銭     | 2 銭     | 19 銭  |
| 明治 4 4 年 | 10 銭    | 4 銭     |         | 15 銭  |
| 大正 3 年   |         | 3 銭 5 厘 | 2 銭     | 15 銭  |
| 大正 6 年   | 11 銭    | 4 銭 5 厘 | 2 銭     | 24 銭  |
| 大正 9 年   | 27 銭    | 13 銭    | 5 銭     | 55 銭  |
| 大正 1 5 年 |         | 15 銭    |         | 50 銭  |
| 昭和 4 年   |         | 10 銭    |         | 40 銭  |
| 昭和 7 年   |         | 14 銭    |         |       |

大正六年から大正九年の三年のあいだに物価は甚だしく高騰している。大豆一升二・四五倍、半紙一帖二・八九倍、タマゴ一個二・五〇倍、炭一俵二・二九倍の高値となっている。ふり返って先に述べた『嘉瀬八幡宮祭宿主集計氏姓別年別戸数調』の表を対照して戴きたい。大正三年

宮例祭宿主集計氏姓別年別戸数調』の表を対照して戴きたい。大正三年三五三戸の戸数が大正六年で三三四戸、大正十二年で三三五戸と戸数が減っているところを見ると、この年代は経済不況時代であったことが、この表からもはっきりと受けとれる。

以上私なりに諸色品帳から、私達の先祖の時代を分析してみたが、読者である嘉瀬の皆さんはどう受けとめるであろうか、あなたなりに本表

から御研究願ひれば幸いであり、その目的もあって本編をまとめてみました。

諸色品帳は寛政時代からのものも、鳴海勲氏が保存してあるので、その調査成果を次集第五集でまとめることとし、嘉瀬村の氏神である嘉瀬八幡宮を管理してきた歴代の氏子総代の名をつらねて筆をとめます。

嘉瀬八幡宮講中当前人名（総代）

※は新任総代

明治二十九年旧四月三日

- 小松久太郎 木村治八郎 沢田 才助 原田卯之助 中村 金助
- 秋元七之丞 木村松三郎 木村 兼吉 ○佐野幸之助 小山内勘五郎
- 木立弥五郎 秋元七之助 原田 永吉 外崎 惣之 鈴木孫十郎
- 鳴海 善六 工藤 太郎 鳴海万次郎 中村喜三郎 黒川 長太
- 内海 長吉 今 吉兵衛 鳴海清九郎 鳴海善四郎 木村三太郎
- 今 弥之 平川平太郎 津田仁太郎 舛甚半兵衛 ○中村斧太郎
- 鳴海已之八 内海市三郎 平川 豊作

明治三十五年旧十月二十四日

- ※鳴海善右門 中村 金助 平川平太郎 ※土岐金九郎 工藤 太郎
- 沢田 才助 ※舛甚半四郎 ※内海勘次郎 ※内海丑太郎 中村喜三郎
- ※内海岩次郎 木立弥五郎 ※鳴海由次郎 鳴海已之八 外崎 惣之
- 鳴海万次郎 鳴海清九郎 内海 長太 木村 兼吉 ※小松 才八

明治三十八年四月三日

- ※中村 与八 鳴海清九郎 舛甚半四郎 ※内海 長吉 ※中村 金助
- 舛甚清太郎 木立 卯作 工藤 太郎 木立弥五郎 土岐金九郎
- ※鳴海丑之丞 内海勘次郎 木村 兼吉 木村三太郎 中村喜三郎
- 鳴海由次郎 ※小松八太郎 外崎 惣之 原田卯之助 鳴海已之八
- 鈴木孫十郎 秋元 佐吉 ○中村斧太郎 ※鳴海繁太郎 ※平川由次郎
- ※沢田勇之助 ※小山内勘五郎 ※沢田 嘉吉 小松 才八 ※今 吉兵衛
- 佐野幸之助 原田 永吉 内海丑太郎 ※黒川 兵八 ※平川 豊作
- ※鳴海 又作 ※秋元七五郎 ※宮崎 嘉吉 内海岩次郎

明治四十一年四月三日

- 木村三太郎 ※土岐丑太郎 鳴海由次郎 ※沢田与三吉 小山内勘五郎
- 佐野幸之助 鳴海丑之丞 ○中村斧太郎 外崎 惣之 今 吉兵衛
- 小松 才八 小松八太郎 黒川 與八 ※木村松三郎 舛甚清太郎
- ※木村與三郎 ※花田長次郎 中村 與八 ※中村 與作 沢田勇之助
- ※内海徳太郎 木立弥五郎 沢田 嘉吉 平川由次郎 秋元 佐吉
- 内海勘次郎 木村治八郎 宮崎 嘉吉 鳴海已之八 内海岩次郎
- ※中村金次郎 平川 豊作 鈴木孫十郎 鳴海繁太郎 ※鳴海大五郎
- 工藤 太郎 ※今 弥五郎 木村 兼吉 原田卯之助



明治四十四年旧四月六日

小山内勘五郎 鳴海大五郎 木村松三郎 木村三太郎 土岐丑太郎
秋元 佐吉 平川由次郎 内海徳太郎 鳴海由次郎 内海勘次郎
中村金次郎 木立弥五郎 ※舛甚半四郎 ※木村 次郎 ※木村與三郎
今 弥五郎 ※舛甚半兵衛 ※内海金次郎 木村 兼吉 ※今 九郎
※須崎 嘉作 工藤 太郎 中村 與作 ○佐野幸之助 ○中村斧太郎
沢田 嘉吉 鳴海繁太郎 小松 才八 花田長次郎 ※外崎 男茶
鳴海巳之八 沢田勇之助 黒川 與八 ※今 吉蔵 平川 豊作
※木立 卯作 小松八太郎 鈴木孫十郎 鳴海丑之丞 沢田興之吉

大正三年五月七日

木村松三郎 工藤 太郎 舛甚半四郎 外崎 男茶 ※原田 忠助
鳴海大五郎 舛甚 間之 土岐丑太郎 平川由次郎 ※木村治一郎
鳴海繁太郎 鳴海丑之丈 中村 與作 内海徳太郎 沢田勇之助
鳴海由次郎 ※中村 十助 鈴木孫十郎 ○佐野幸之助 花田長次郎
※今 松哉 沢田 嘉吉 ※内海勘三郎 黒川 與八 平川 豊作
○中村斧太郎 ※小山内勘之助 木村 兼吉 ※舛甚辰五郎 木立弥五郎
小松八太郎 木村三太郎 内海金次郎 ※舛甚 万助 小松 才八
秋元 佐吉 ※木村直太郎

大正六年旧三月十五日

原田 忠助 外崎 男茶 鈴木孫太郎 木村松三郎 鳴海丑之丈
鳴海繁太郎 舛甚 万助 ○佐野幸之助 小山内勘之助 鳴海由次郎
内海勘次郎 平川由次郎 秋元由太郎 沢田 嘉吉 木立弥五郎

大正九年旧三月十五日

舛甚子之太郎 内海徳太郎 沢田勇之助 中村 與作 木村三太郎
内海金次郎 舛甚 間之 土岐丑太郎 木村治一郎 木村直太郎
工藤 太郎 黒川 長吾 平川 豊作 鎌田金五郎 鳴海石太郎
○中村斧太郎 木立弥次郎 花田長次郎 鳴海稲太郎 小松 才八
中村 十助 鳴海大五郎 中村若太郎 木村兼五郎 今 松哉
舛甚辰五郎 小松八太郎

大正十二年旧三月二十日

原田 忠助 外崎 男茶 鈴木孫太郎 木村松三郎 鳴海丑之丈
鳴海繁太郎 舛甚 万助 ○佐野 夕ヶ 小山内勘之助 ※木村兼五郎
鳴海由次郎 ※内海勘次郎 平川由次郎 ※秋元由太郎 沢田 嘉吉
木立間五郎 ※舛甚子之太郎 内海徳太郎 沢田勇之助 中村 與作
木村三太郎 ※内海 佐吉 ※舛甚万次郎 土岐丑太郎 木村治一郎
工藤 太郎 平川 豊作 ※鎌田金五郎 ※鳴海石太郎 ○中村斧太郎
※木立弥次郎 ※今 弥五郎 花田長次郎 ※鳴海稲太郎 小松 才八
中村 十助 鳴海大五郎 ※中村若太郎 小松八太郎 ※内海嘉之助
※木村兼次郎

木村松三郎 ○中村斧太郎 外崎 男茶 鎌田金五郎 土岐丑太郎
※今 喜一郎 ※鳴海惣五郎 ※鳴海 大吉 小松八太郎 小松 才八
平川 豊作 ※沢田 才八 木立間五郎 木村三太郎 ※内海嘉之七
※舛甚子之太郎

大正十五年五月五日

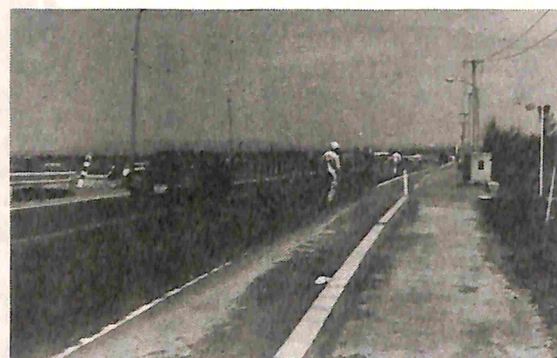
土岐丑太郎 ※佐野駒三郎 中村 與作 木村松三郎 山中利四郎
※木立又五郎 木立弥次郎 鳴海繁次郎 内海徳太郎 鳴海万次郎
平川由次郎 吉崎弥五郎 鳴海稲太郎 舛甚 万作 沢田勇之助
花田長次郎 ※鳴海 豊吉 ※鳴海 要吉 ※阿部與三郎 ※鳴海伊三郎
秋元七五郎 沢田 才八 ※秋元元太郎 鳴海由次郎 ※小山内定次郎
舛甚 万助 ※木村 三太 小松八太郎 小松 才八 平川 豊作
※津田 茂作 舛甚万次郎 鳴海惣五郎 ※中村 正一 ※鎌田吉太郎
舛甚 佐助 外崎 男茶 鳴海 大吉 木立間五郎 ※対馬治太郎
木村米太郎

昭和四年五月五日

佐野駒三郎 沢田 才八 中村 與作 沢田勇之助 平川由次郎
鳴海 大吉 鳴海惣五郎 鳴海 豊吉 小山内定次郎 対馬治太郎
※内海市太郎 土岐丑太郎 木村松三郎 今 弥五郎 舛甚 万助
鳴海万次郎 鳴海繁次郎 吉崎弥五郎 秋元元太郎 ※鳴海末四郎
※木村 米八 ※黒川長次郎 木立弥次郎 鳴海與太郎 秋元七五郎
阿部 佐吉 鳴海由次郎 小松 才八 鳴海藤太郎 木立又五郎
鎌田吉太郎 花田長次郎 木村米太郎 舛甚 佐助 外崎 男茶

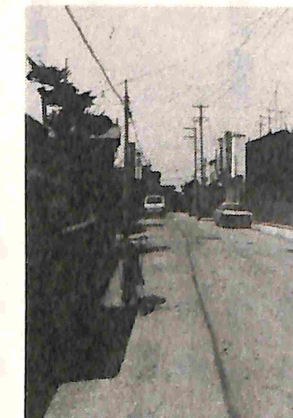
昭和七年五月五日 (旧三月三十日)

沢田勇之助 鳴海由次郎 鳴海繁次郎 鳴海伊三郎 山中利四郎
今 弥五郎 舛甚 万助 舛甚万次郎 沢田 才八 花田長次郎
中村 與作 木村松三郎 ※白崎 秀八 ※沢田 長四 小山内兼蔵
吉崎弥五郎 鳴海 ○○ 小山内定次郎 内海市太郎 木立又五郎
鳴海惣五郎 ※木下綱五郎 小松 才八 鳴海 大吉 平川由次郎
鳴海 豊吉 土岐丑太郎 秋元元太郎 黒川長次郎 秋元七五郎
※阿部 佐吉 鳴海與太郎 木村米太郎 小松八太郎 鳴海 要吉
舛甚 万作

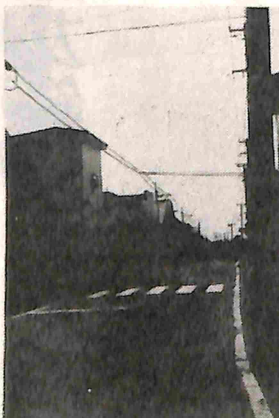


▶新奴橋バイパス国道

▶前町通り



▶鍛冶町通り





# 人丸の石をたずねて

北沢 謙

人丸の石をたずねているうちに、清久溜池端に道を失い、嘉瀬八幡宮への道を問うた人の面影を貴紙『ふるさとのかたりべ』第三集の巻末の会員プロフィールの中に探しておりますと、皆様の全ての中に、あの親切な方のお顔が浮かび、きつとあの方も嘉瀬でふるさとを探る会の会員でいらっしやるのだろう、などと勝手な想像をしつつ今貴誌を読み終えて大変こちよい疲労感をおぼえております。

その方に教えていただいたとおり農協前を通って嘉瀬駅に至り、ふと駅に立ち寄った折、駅舎内の売店で貴誌を目にしたのが、貴誌との出合いでありました。

馬頭観音のイゴク穴も辻地蔵も、深い雪におおわれ、あるいは固く閉ざされておりましたが、貴誌の記事をたどりつつ、八幡宮に着いた時に

は、折からの横なぐりの風に霰が頬をたたき、奴踊りの碑の前を過ぎて、境内に入ると、積った雪の為、小さな鳥居などは、腰をかがめてくぐるうちに、人丸の石の前に立った時は、嘉瀬の山中龍助翁の歌ごころに少しでも触れんもの、と、しばし時の流れるのを忘れたものであります。以来十日間、足と心の向くまま旅をしております。道すがら貴誌を繰り返し読ませていただき、おどろくばかりの濃厚な内容にただただ感謝する許りでございます。

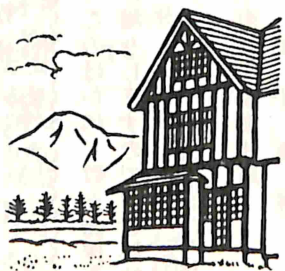
永い永い歴史を背景に、今生業のかたわら、ふるさとの探究に邁進される会員諸氏に見くらべますと、我が遊山の旅三昧、ことさらに気はずかしく冷汗を禁じ得ません。

ことに秋元万作様以下の生活記録などは、ただもったいなく、飽食の世に生きる者としての心につきささるばかりでありました。また有間太郎様の東日流外三郡誌の御研究などは実に感動的で、遠く秋田孝季の辛酸肌に感ぜられ、歴史を探る者のこころざしを新たにし、一明を見出す思いでありました。

巻末『かたりべへの便り』に奮起し、拙文したため居る次第で、末筆ながら会員諸氏の弥栄をお祈り申し上げます。

## 山中家

# 蔵書目録



番号 書籍名 巻(冊) 発行年月等

1 兵庫記 全巻一冊、建武二年三月日、赤松満祐秘蔵

明暦元年未丑月日写 奈良氏

2 同文通考 全巻二冊(一至二、三) 寛曆十庚辰秋九月、新井

白蛾補校、文政十二年巳丑仲秋写、赤松貞義

3 装束図式 全巻二冊(上下) 元龜二年二月朔日、龍作

元禄五壬申十月日、富倉太兵衛刊行

4 日本紀神代抄 全巻七冊(起之一、二ノ三・四、五之六、七之八

沙汰九、十之十一) 享禄辛卯冬十一月日、東塔

檀那院拙什証、寛文九己酉年正月辰、武村市兵衛

昌常

5 四書国字辨 全巻十冊(大学、中庸、論語四、孟子四) 天明

八戊八月御免、寛政六甲寅臘月ロウ発行、東都、須原

屋茂兵衛

6 四書集註 全巻十冊(大学、中庸、論語四、孟子四) 東都、

荒川東山先生正校、東都書肆、和泉屋庄次郎、吉

田屋文三郎

7 増積大廣益会玉篇大全 全巻八冊(一之二、三上下、四上下、

五、六上下、七、八之九、十之十一) 毛利貞斎先

生著、新校刊布浪速書肆、大野木市兵衛、松村九

兵衛

8 七書俚諺抄 全巻十冊(孫子一至二、三至五、呉子上下、司馬

沙前後、尉繚上中下、三略上下、六韜一至三、四

至五、太宗三至五) 正徳四年甲午南呂辰、神田白

龍子軒書、神田勝久編輯、発行書林、和泉屋吉兵

衛

9 纂評唐宋八大家文読本 全三十巻十五冊、明治十一年三月八日版

権免許、纂輯人 井上揆一



**TOTAL FASHIN**  
紳士服の名門

# ふくだ

北津軽郡金木町米町  
TEL 2-2552  
社長 福田元信

■ 金木本店

■ 五所川原店

■ 弘前店

■ 黒石横町店

貯金 共済 肥料

## は農協へ

### 嘉瀬農業協同組合

金木町大字嘉瀬字雲省野一八ノ一  
電話(代) 五三一—二〇六七

組合長理事  
専務理事  
参事

吉崎 忠直  
木村 金利  
鳴海 俊三

- 10 唐宋八大家読本譯語 全四卷四冊、明治九年二月廿四日版權免許、訓譯者 城井壽章
  - 11 今古八大家文鈔 全卷三冊(一、二、三) 明治十年三月一日版權免許、白井篤治撰、編輯人 内田孝太郎
  - 12 新選名家文抄 全卷二冊(上、下) 明治十年七月廿日版權免許、編者、根岸千引、閱者 中村江洲
  - 13 今体名家文抄 全卷三冊(一、二至三、四至五) 明治十年二月十日 三日期權免許、編輯人 土居光萃、出版人 内藤伝右衛門
  - 14 助字解 全卷二冊(上、下) 明治十年三月廿二日版權免許、編纂人 原田道義、出版人 大西庄之助
  - 15 唐詩選畫本 全卷三十五冊
    - 一、五七言律排律、卷五冊、寛政三年辛亥五月 君山唐世濟識、赤峰田順書、高田円乘撰、彫工 杉田金助、江都日本橋書肆嵩山房、小林新兵衛藏版
    - 二、五七言古 卷五冊、天保三年壬辰夏五月日 高井蘭山翁述、翠溪先生画、東都書林藏版
    - 三、五七言絶句 卷五冊、寛政五年癸丑正月日 天萃樓主人撰、紅溪齋主人画、東都書林藏版
    - 四、七言絶句 卷五冊 文化十一年申戌九月再版 芙蓉山人撰、小林高英画、東都書林藏版
    - 五、五言絶句 卷五冊 文化之丑再刻 臺南郭二先生撰、石峯先生画、東都書林藏版
  - 16 校刻日本外交 全二十二卷十二冊(内一卷、二卷二冊欠書、在庫三卷大尾十冊)
    - 三至四源氏、北條氏、五至六新田氏、楠氏、七至九足利氏、十至十一北條氏、武田氏、上杉氏、十二至十三毛利氏、織田氏、十四至十五織田氏、豊臣氏、十六至十七豊臣氏、十八至二十徳川氏、二十一徳川氏、二十二徳川氏
- 本目錄は、蔵書の一部でこのほかにも数百冊保存しております。ご希望の方にお譲りしますので、ご連絡又はお問い合わせ先

出版人 松平直方



嘉瀬地区の皆さんへ



「会」が発足し村内の旧蹟調査等をはじめ七年开始しますが、その中で嘉瀬の先祖は、地獄の責め苦に耐え乍らの暮しであったことを知りました。

藩主、代官、地主から二重三重と搾取され凶作が続けば飢饉に繋がる藩政の下で、貧農だけが餓死する環境に置かれていたのです。

先祖は、この苦難から逃れようと只管、信仰に縋り村の繁栄を祈り続けた。今、道路端の片隅に追われ、砂塵を浴びている地蔵さんは、当時の事を何と考えているのか、何も語ってくれない。

村には寺、神社、旧所等歴史を語る遺蹟が残されています。先祖が遺してくれた貴重なこの遺蹟が、消却されないうちに当時の神髄に触れ、このことを後世に伝い遺したい一念から探究し続けています。みなさまのご助言ご支援をお願い致します。

嘉瀬ふるさとを探る会

会長 木村治利



赤沿筆  
編集主幹  
木下清一

嘉瀬から消えた職業の一つである桶屋、屋根吹き、碓打ち、馬蹄屋、次集にとりあげてみたい。うしなわれていったその技術と作業具。農村生活とどのようにかわりあいがあったのだろうか。

『紙上討論』に寄稿の花田五郎、太田忠光、吉崎正光、青山兼四郎各氏の新解釈論説有難う御座居ました。私達は古い伝承を裏側からのぞくことも意義があると思われる。読者からの原稿、論説が寄せられることを。

農作業がおくれた津軽の田園にも若苗がそよぐ六月十日ようやく編集割付けを完了、八戸プリントに印刷発注することができた。

昭和五十九年度 嘉瀬ふるさとを探る会 会員名簿

|         |        |
|---------|--------|
| 会 長     | 木村治利   |
| 副会長     | 原田万治   |
| かたりべ編集長 | 山中正津   |
| 会計局長    | 木立久二   |
| 事務局局長   | 木下清一   |
| 事務局員    | 沢田勝衛   |
| 会 員     | 外崎三千男  |
|         | 伊藤定四郎  |
|         | 鳴動 勲   |
|         | 秋元幸之進  |
|         | 木下俊蔵   |
|         | 小山内嘉一郎 |
|         | 須崎正敏   |
|         | 沢田政孝   |
|         | 山中長三郎  |
|         | 沢田 薫   |
|         | 原田正信   |
|         | 秋元 愼之進 |
|         | 秋元米太郎  |
|         | 木下 巽   |
|         | 沢田国美   |
|         | 秋元清逸   |

発行日 昭和 59 年 8 月 1 日  
 発行所 青森県北津軽郡金木町嘉瀬 嘉瀬ふるさとを探る会  
 発行者 木村治利  
 編集人 木下清一  
 印刷所 有限会社 八戸プリント 沢田 孝



金木分館



1090105070